

廃棄物処理と循環型社会

20 世紀後半 大量生産、大量消費、大量廃棄

21 世紀 持続的に発展していくための社会システムを創造

廃棄物処理の歴史

- ・ 使い捨て、エンド オブ パイプ、不法投棄
- ・ 環境（水、空気）に対する人々の要求レベルが高まる → 廃棄物の増加
- ・ 廃棄物処理施設の増設
- ・ 廃棄物問題
 - 1) ダイオキシン
 - 2) 不法投棄
 - 3) 公共水域汚染（埋立地）
- ・ 廃棄物処理施設の設置 → 困難（埋立地の無い自治体）
- ・ システムの高度化 費用の高額化
- ・ 廃棄物問題が社会全体で取り組まれる

社会での取り組み

（1）廃棄物対策側 施設確保、廃棄物削減で埋立処分量削減

（2）生産側 循環資源 3R しやすい製品、拡大生産者責任

国の目標

2010 埋立量半減、2050 1/10（＝ゴミゼロ社会）

循環型社会

- ・ 「活発な循環が目的」と誤解されやすい
- ・ 環境負荷が小さく、天然資源消費も小さい持続可能な社会
- ・ 技術および生活スタイルで変化させる
- ・ これまでの流れ
 - 1962 沈黙の春（Silent Spring）
 - 1965 宇宙船地球号
 - 1972 成長の限界（ローマクラブ）
 - 1987 持続可能な開発
 - 1992 アジェンダ 21

循環型社会へ向けた歩み

- ・ ライフスタイル変化
- ・ 物質循環
- ・ 3R
- ・ 環境に配慮した産業の形成
産業エコシステム、クリーナープロダクション、インダストリアルエコロジー、LCA、ゼロエミッション、インバース・マニュファクチャリング、環境配慮設計（DfE）、環境マネージメント、環境ラベル、環境ビジネス

循環型社会を進めるための基本理念や手法

理念：排出者責任、拡大生産者責任（EPR）、リスク管理

手法：規制的、経済的、倫理的